



1. ディベートとは

弁論部では「競技ディベート」というものを行っています。

「競技ディベート」とはあるテーマ（論題）に対して、そのテーマ（論題）に賛成する「肯定側」と、そのテーマに反対する「否定側」に分かれてお互いの意見を主張し合い、どちらがよりすぐれているかを競うゲームのようなものです。

たとえば今回文化祭で取り扱う論題「全国の小中高等学校をすべて共学化すべきである。是か非か。」においては、肯定側は共学にすることによってどのような恩恵がもたらされるのか、否定側は共学にするとどのような不利益があるのかを主張します。

テーマ（論題）にはよく政策が取り上げられ、刑事事件の実名報道に刑事罰を科す・救急車を有料化するなどのように基本的には新たな政策を導入すべきかどうか主張します。

また、「肯定側」と「否定側」は通常じゃんけん等によって決められ、自分たちの意見とは無関係に定まります。

2. 勝敗の付け方

試合には「ジャッジ（審判）」がいて、議論を聞いた上でどちらの方がより優れているのかを客観的に判断します。そのため、相手を言い負かすことが目的ではなく「ジャッジ」に向けて説得力のある主張をしていくことになります。なお、この文化祭では観客の皆様判断していただきます。

3. 試合の流れ

試合には肯定側・否定側ともに「立論」「質疑」「応答」「第一反駁」「第二反駁」という4つのポジションがあり交互に主張します。

試合は

「肯定側立論」→「否定側質疑」→「否定側立論」→「肯定側質疑」

→「否定側第一反駁」→「肯定側第一反駁」→「否定側第二反駁」→「肯定側第二反駁」

の順で行われます。



<各ポジションごとの説明>

1. 立論

これは試合の最初に肯定側・否定側それぞれが提示するもので、肯定側は「メリット」（政策を導入して得られるいいこと）と否定側は「デメリット」（政策を導入したら失われてしまう利益）を主張します。一番最初のポジションなだけあって、ディベートを聞く際に最も重要なポジションです。立論は主に「現状分析」「発生過程」「重要性・深刻性」の3つから構成されます。ディベートを初めて聞く際はこの3つ

を意識して聞いてみてください。立論内で切り替わるときは必ず「発生過程です」や「深刻性は次の2点です」などの文句が入るので是非参考にしてみてください。

・現状分析（内因性・固有性）

ここでは自分の議論を展開するうえでの基礎となる情報を提示していきます。肯定側では現状の問題点を、否定側では政策を導入することで失われてしまう、現状得られている利益について述べるのが一般です。カンタンに言えば「現在はこんなことが起きてますよ」と皆さんに説明する場所です。

・発生過程（解決性）

ここでは論題の制度を導入した時に何が変化して「メリット」「デメリット」がどのような形で発生するのかをその過程と共に説明します。ただあまり難しく考えずに、「今の何が変わるの？」という姿勢で聞いてもらえれば大丈夫です。またカッコ内の解決性というのは発生過程の別称です。特に違いは無いです。

・重要性/ 深刻性

肯定側のものは重要性、否定側のものは深刻性と呼ばれます。ここでは現状分析と発生過程で証明した「メリット」「デメリット」がどれほど重要なのか、深刻な問題なのかを主張する場所です。



春論文弁



2. 質疑

相手の立論の後に行われるポジションです。

立論の中で分からなかった部分、あるいは内容がはっきりと分からなかった（説明不足な）部分に対して、立論を担当した者に直接質疑し、明確にします。

相手の立論の中での矛盾を突いたり、自らの議論のレールの上へと引き摺り込んだり、臨機応変な対応が求められるポジションといえます。ただ聞くのにこれといったコツは必要ないので気軽に聞いてください。

3. 第一反駁

反駁という難しいと言葉を使っていますが「反論」と解釈してもらって構いません。第一反駁では、相手の立論の、質疑でも確認しても説明が不十分な部分、間違っている部分についてどうおかしいのか説明し、相手の主張を否定します。否定側であれば相手の立論、肯定側であれば相手の立論と第一反駁に対して反論を試みるポジションです（この相手の反駁に対する反駁のことを特に「再反駁」といいます）。

基本的に反駁の内容を述べる前に、スピーチ者が反駁する場所を指定する（具体的には「肯定側立論の重要性の2点目に」「否定側第一反駁の発生過程への反駁について」といった感じで宣言します。）ので、聞く際には是非参考にしてみてください。

4. 第二反駁

ディベートの最後のポジションです。

相手の第一反駁に反駁しつつ、議論全体をまとめあげていくポジションです。個々の議論に決着をつけながら、これまでの議論全体の内容を整理してどれほど重要／深刻なのかを証明します。また、人によっては投票基準＝「〇〇なので我々に投票できると思います」を提示してくれることもあります。スピーチの花形であり、ディベートの真骨頂でもあるポジションなのでぜひ注目して聞いてみてください。



～論題解説～

論題：「日本は、全国の小中高校において、宿題を廃止すべきである。是か非か」

はじめに

学生にとっては、利益もあれば、不利益でもある宿題。学生にとって、時間を奪い取る害悪ではありますが、その分メリットもある、そんな宿題の在り方について考える論題です。

肯定側で考えられる主張

分厚い冊子、本、紙、紙。" 写経" とまで揶揄される宿題は、生徒にとって大きな負担となっています。それにより、趣味や、より効率的な学習に使える時間が侵害されています。それを取り除くことで、学生生活を有意義にすごそうというわけです。

毎日の宿題を一時間とすると、宿題を廃止することでその分をこれからは自由に使うことができます。強制された学習ではなく、自主的な学習。打ち込みたい趣味。運動会のために筋トレなんかを始めるのもいいかもしれません。

また、教師も膨大な宿題のチェックを行うという負担から解放され、授業準備を深めたり、生徒にあった指導といった有意義な時間を過ごせるでしょう。

否定側で考えられる主張

誰しものが宿題の苦しみに耐え、頑張ってきました。その成果は決して無駄なものではなかったはずです。初心に帰って、宿題の意義を見つめ直します。

A 基礎学力の低下

千里の道もなんとやら。宿題で毎日こつこつやることは間違いなく学力向上につながるはず。強制させてでも、未来のために宿題をやるべきなのです。廃止してしまったら、結局なまけちゃんじゃないでしょうか。

B 義務感・忍耐力の低下

嫌なことでも、逃げてばかりじゃヒーローにはなれません。やりたくない宿題を我慢してやるのが、これからの人生の忍耐力を育てることにもなるのです。やらなくてはいけない、というのは義務感も育んでくれるはずなのです。やりたくないことをやらなければいけないことは社会に出たら、絶対にあります。それに備えるために、宿題は必要なのかもしれません。